

ハイチ大地震

AMDA第2陣出発

菅波代表ら 医療や情報収集

ハイチ大地震の被災者支援のため、国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）の菅波茂代表（63）ら医師2人が20日、現地へ向け出発した。情報収集や医療活動を行いながら、近く派遣する多国籍医師団の受け入れ態勢を整える。（5面関連）

と隣国の医療キャンプを拠点にした活動になるだろう」と話した。JR岡山駅から新幹線へ出発。関西国際空港から米ニューヨークなどを経由し、隣国・ドミニカから陸路でハイチ入りする。現地には5日間滞在し、27日に帰国する予定。AMD

菅波代表が緊急医療チームの一員として被災地へ赴くのはAMDA表は「（ハイチは）治

きた甲府市の非政府組織（NGO）「ハイチ友の会」代表で医師の小澤幸子さん（35）が、地震被害に心を痛めている。「一番つらいときにハイチの人と一緒に苦労したかどうかで信頼関係が違ってくる。足を運びたい」。日本赤十字社に連絡し、救援チームへの参加を模索している。

1994年にハイチを訪れた

支援NGO医師「一緒に苦労を」

た際、国で一番立派といわれた病院でさえ、大勢の患者が列をつくり、床に横たわる光景を目の当たりに。医師を志すきっかけにもなり、翌年に会を設立した。

ハイチ人画家の絵をプリントしたはがきを日本で販売し、収益で足踏みミシンを現



山梨県山梨市内でハイチについて説明する小澤幸子さん＝16日

救援参加を模索

地へ。またほぼ毎年、約2週間ハイチに滞在し、植林や、日本で集めた資金で子どもを学校に通わせる取り組みをしてきた。小澤さんは「土地に通じ、言葉を理解できる自分が行けば少しは役に立てる」と思いを募らせている。

DAは14日に第1陣として医師ら4人を派遣。次発隊の派遣も計画している。（伊丹友香）



ハイチへ向け出発するAMDAの菅波代表（右）ら＝20日午前9時35分、JR岡山駅